

誰もが働きやすい社会を目指して

毎年12月3日～9日は「障害者週間」です。市内には、誰もが自分らしく安心して働ける社会を目指し、障がい者雇用に積極的に取り組む企業があります。ここでは、国の認定制度「もにす」を市内で初めて取得した企業とその取り組みを紹介します。

社会で働くということ

「働く」ということは、単に収入を得るだけではありません。仕事を通じて社会とつながることは、生きがいや充実感を感じる大切なことです。これは障がいのある人にとっても同じです。地域で自分らしく暮らし、社会の一員として関わっていくためには働く場の確保が欠かせません。

障がい者雇用を支援するもにす認定制度

もにす認定制度とは、障がい者雇用の促進と働きやすい環境づくりにおいて、特に優れた取り組みを行っている中小企業を国が認定するものです。愛称の「もにす」には、企業と障がいのある人が、明るい未来や社会の実現に向けて「ともにすすむ」という思いが込められています。

められています。

認定を受けた企業は、認定マークを商品や広告などに使うことができます。



また、ハローワークの求人票などにも認定マークが表示され、求職者に広く紹介されます。

市内初の認定企業が誕生

(株)成田空港ビジネスが、市内で初めて「もにす」の認定を受けました。同社では、成田空港や関連企業のオフィス内にある植栽の手入れのほか、農作業といった業務を通じて、障がいのある従業員が安心して働ける職場環境を提供しています。

また、一人一人がやりがいを持って働けるよう、雇用の場を創出する取り組みに力を入れていて

成田空港内に植物工場を設置し、空港やオフィスなどに飾る植栽を自社で栽培・管理する態勢を整えています。

さらに、従業員に寄り添った働きやすい環境を目指して、学校や障がい者支援団体と連携しアドバイスを受けるなど、生活面・仕事面のサポートにも積極的に取り組んでいます。

誰もが生き生きと暮らせるように

障がい者雇用への取り組みを知ること、障がいのあるなしに関わらず、誰もがその人らしく働き、活躍できる地域社会を実現するための第一歩です。

この機会に、障がいへの理解を深めてみませんか。

※くわしくは障がい者福祉課(☎20・153(9)へ。

市内初のもにす認定企業にインタビューしました



多様な人が活躍できる職場を目指して

(株)成田空港ビジネス
総務課長 舟木 佳美さん

障がい者雇用を始めた当初は、身体障がいのある人を主に採用していましたが、現在は、知的障がいのある人の「同じ作業を繰り返し正確に行える」といった強みに注目し、既存の業務を整理・分析することで、業務の幅を広げるとともに、採用の機会を広げています。



細かいところにもこだわって

また、障がいのある人とともに働くために私たちが大切にしているのが、職場内外でのコミュニケーションです。全従業員が参加できる交流会などを定期的に行い、従業員やその家族との絆を深めながら、安心して働ける環境づくりを進めています。

従業員からは
こんな声が

- 日本の空の玄関口である成田空港で働けていることがうれしいです
- 植栽の手入れをしていると、お客さんの笑顔に出会えて、やりがいを感じています